

日本防災士会 千葉北

第 30 号 2017 年 10 月 1 日発行

今号の内容

防災士が考える「事業継続計画」	1
日本に住む外国人のための防災講義	2
そら博 2017 (SORA EXPO 2017)	4
初めての東北被災地視察に参加して	6
北部支部会員さん紙上インタビュー	
白川 恵さん	8
熊澤 晃さん	9
会員短信 平山優子さん	10
北部支部の防災支援活動	10
新会員紹介	11

防災士が考える

「事業継続計画」講演会

8月2日(水)野田市消防防災協会の主催で「防災士が考える事業継続計画」をテーマに講演会が行われ北部支部が協力しました(野田市中央公民館)。

事業継続計画(Business Continuity Plan、略称 BCP)とは企業や組織が自然災害、大事故、テロ攻撃など不測の事態に遭遇した時に損害を最小限にとどめな

がら中核となる重要な事業が継続できるように、また事業が中断しても早期復旧が出来るように策定する非常時対応計画です。

今回のテーマを「防災士が考える事業継続計画」とした理由はこの提案が「従業員とその家族の安全を守る」ことを最優先事項に置いており、経営優先の考え方で策定されたこれまでの事業継続計画とは視点が異なることを示すためです。

講演会は2部形式で行われ、第1部では北部支部の竹内哲志防災士が「防災士が考える事業継続計画」について講演しました。第2部では家庭防災をテーマに「家具転倒防止」「非常食のローリングストック」「応急手当」「トイレ対策」について4人の防災士のリレー講演が効果的な実演をはさみながら行われました。家庭防災は従業員と家族の安全を守ると同時に同じ考え方が職場の安全確保にも適用できます。講演会には野田市内の各事業所から66名の防災責任者が参加しました。

「防災士が考える事業継続計画」の講演では以下のポイントが話されました。

- 事業継続計画策定の基本理念

- 自助：会社の業務は会社自らが守る
- 共助：地域・近隣企業と連携し被害の拡大を防ぐ
- 協働：市民・企業・自治体・防災組織などが協力して活動する
- 社員の安全確保が企業として最も大切
- 家族が無事でないと社員は動けない
- 社員と家族の安全確保に必要な施策や支援を行うことがすべてに優先する
- 事業継続計画を策定することによるメリット
 - 会社の強みと弱みが見えてくる
 - 事業の見直しや絞り込みができる
 - 会社のイメージが向上し顧客と取引先の信頼が増す
 - 社員の自主性が向上する

家庭防災の講演の中で、青木信夫防災士が自身の被災体験にもとづきペット用シートを活用した「水を使わないトイレ」の有用性が紹介され関心を集めました。講演終了後は家具転倒防止器具や備蓄食料品などの展示ブースの見学が行われ熱心な質疑が交わされました。



「事業継続計画」講演



「応急手当」講演

日本に住む外国人のための防災講義

千葉市国際交流協会の主催で6月3日（土）に千葉市国際交流プラザで行われ北部支部が協力しました。千葉市が主催する日本語教室で学ぶ外国人生徒を対象にしたも

ので中国、ベトナム、タイなどの人たちと日本語教室の先生を合わせて約 20 名が参加しました。

この防災講義は毎年開催されており今年「地震が起きた場合の行動」をテーマにしました。参加した外国人は日本語を学んでいる人たちで、ある程度の日本語は理解できますがそのレベルにはばらつきがあります。理解を助けるために講義は寸劇を交え、一方通行にならないよう対話形式で行われました。北部支部の白川恵防災士が講師となり、竹内哲志防災士と青木信夫防災士がそれぞれ乳児を持つ母親役と父親役になりました。

講義の進め方の一端を紹介します。

- 講師：「地震が起きました！かなり揺れています」
- おむつ交換中の母親：乳児を抱いてテーブルの下に隠れる。
調理中の父親：玄関のドアをあけてテーブルの下に隠れる。
- 講師：「地震がおさまりました」
父親：ガスの元栓をしめる。
- 講師：「隣の家から火災発生！すぐ燃え移りそうです」
- 母親：乳児を抱いて逃げる準備
父親：逃げる支度
- 講師：「お父さんは最初にドアを開けました。なぜでしょう？」
- 生徒：手を上げて様々に答える。
- 講師：「そうですね。地震でドアが開かなくなってしまうと出られなくなってしまう。最初に開けましょう」
- 講師：「お父さんはすぐに火を消しませんでした。なぜですか？」
- 生徒：手を上げて様々に答える。
- 講師：「ガスにはマイコンメーターがついています。地震の時は自動的にガスが止まります。マイコンメーターを見たことはありますか？」
- マイコンメーターを知らない人がいるので、事前に配っておいた外国人向けの千葉市防災手帳の該当ページを開いてもらいマイコンメーターを絵で確認します。

このように①やって（演じて）見せる→②質問して意見を聞く→③意見を集約して全員が正しく理解できたことを確認する、という工程を追いながら講義を進めます。講師は例えば「逃げ道の確保」のような難しい表現は使わず、できるだけわかりやすい日本を選びゆっくり聞き取りやすい声で話します。理解の助けとして必要に応じて外国人向けの防災手帳を開いてもらい、目で見て、耳で聞いて、自分で考えて、活字や絵で確認しながら学習効果を高めるようにしました。また講義では参加生徒各自が

住んでいる地域の防災マップを用紙し、自分の家と避難所の位置などを地図の上で確認し安全な避難経路を一人ひとりが考えてみました。

このような外国人向けの防災講義は年1回だけでなく、開催数を増やし内容の拡充を図ることが望まれます。また外国人だけでなく、子育て中のお母さん、お年寄り、配慮を必要とする方などを対象にこのような親しみやすく分かりやすい防災セミナーを開催することも望ましいことであると思われまます。



問いかけながらの講義



自宅と避難場所を確認

そら博 2017 (SORA EXPO 2017) 防災コーナーで協力

4回目を迎えた「そら博 2017」がウエザーニュース社の主催で8月5日（土）、6日（日）千葉市幕張メッセで開催されました。そら博は空や気象などについて学びながら子供たちが理科に興味を持つようになること、集中豪雨などの異常気象がもたらす様々な災害と防災・減災について考える機会を提供することなどを目的として開催されています。子供たちに夏休みの研究テーマのヒントを提供する場ともなり親子連れを中心に11,554名の来場者がありました。起震車の搭乗者は1,180名でした。

北部支部は技術支援チームに協力しBCNと共に「防災・減災」コーナーを担当し次のことを行いました。

- 地震体験車による地震の疑似体験
- 心肺蘇生とAED実技講習
- 非常時用のロープワーク実技講習
- サバイバル講習（日用品を利用した各種サバイバルグッズの作成）
- 救出・応急手当実技講習（救出、応急手当、応急担架作成など）

- 災害状況写真のパネル展示
- 防災士会・防災士機構の活動紹介（リーフレットとパンフレット配布）

著名な気象予報士で防災士でもある木原実氏が来場し起震車で地震を体験。木原氏は「このような地震が来たら自分の家が一体どうなるかを想像しました。どう備えるか考えて実行することが大事ですね。誰もが起震車に乗ってみるべきです。昨年も起震車に乗りましたが今日乗ってまた恐ろしさを思い出しました。」と感想を語っていました。



心肺蘇生



応急手当



地震体験



サバイバル講習



救出



協力スタッフ（5日）

初めての東北被災地視察に参加して

中村あや子防災士

8月8日(火)、9日(水)の2日間、野田市市議会の有志視察グループの一員として宮城県石巻市と福島県伊達市を訪問しました。

石巻市では最初に「石巻市復興まちづくり情報交流館」中央館を訪ね復興状況を示す展示を見学しました。震災からすでに6年半が経過しているにもかかわらず漁港の復旧はまだ30%程度、被災者用の公営住宅の建設も計画数の80%に満たず市民生活の復興が大変に遅れている実態を知りました。同館の館長は英国人のリチャード氏で1993年から石巻市の大学で英語を教えていました。震災後も同市に残ることを決意し2015年のまちづくり情報交流館のオープニングと共に市長の要請で館長に就任し、多くの海外からの訪問者にバイリンガルの語り部として対応。今日まで石巻市の震災と復興の姿を世界に発信することを使命として尽力されている姿に深い感銘を受けました。

次に津波被害が最も大きかった南浜地区にある「東日本大震災メモリアル南浜つなぐ館」を訪ねました。雑草が深く茂り道路整備も不十分な宅地造成地のような場所にポツンと建っていました。震災前は1,800世帯が暮らす町でしたが6mを超す津波がすべてを押し流し350名以上の方が今も行方不明です。町の跡は居住制限地域に指定され「石巻市南浜津波復興記念公園」にする整備工事が始まっていました。つなぐ館の隣にテレビなどで紹介された「がんばろう石巻」の大看板と津波に負けずに生き残った「ど根性ひまわり」が真夏の陽光を浴びて元気に咲いていました。

石巻市では津波で亡くなった大川小学校児童の保護者達が、子供たちが避難したかったであろう高台の丘にひまわりを育てる取り組みを始めました。それを知った人たちが保護者たちの思いを絵本「ひまわりの丘」としてまとめました。そしてその思いを全国に伝えるための朗読会を開催し悲惨な津波災害の記憶を風化させないようにと活動しているのが「3月のひまわり」という会です。来年1月には野田市でも朗読会の開催が決まっています。

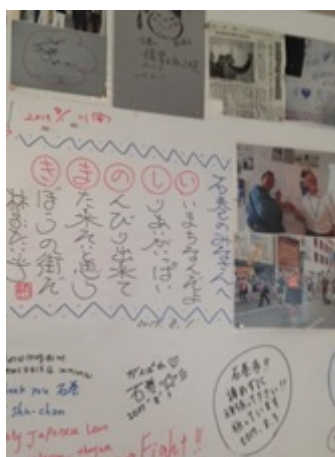
福島県伊達市では市役所を訪ね児童生徒を対象にした防災教育を視察しました。内陸部にある同市は津波災害には遭いませんでしたが福島第一原発による放射能災害との闘いがあり次のような取り組みを進めて来ました。

- 放射能から健康を守るため夏でも長袖・長ズボンとマスク着用の生活を強いられる上、屋外での遊びが出来ないためストレスがたまります。そこで県外の市町村と連携し小学校高学年を対象に県外での移動教室を開催し、安全な伸び伸びした環境の中で体験合宿を行いました。
- 全ての小中学校にエアコンを設置し校庭の除染を最優先で行い児童生徒の生活環境を守りました。
- 東京芸術大学との吹奏楽合同演奏会や英語に親しむ事業を推進し児童生徒の夢と希望を育てる取り組みを進めて来ました。
- 放射線の正しい知識と安全対策を学ぶために市で独自の副読教本を作成し教育を推進して来ました。
- 中学・高校生徒を対象に「防災リーダー育成プログラム」による防災教育を福島大学の主催で毎年8回にわたり開催して来ました。

今回初めて被災地を訪ねて自然災害の脅威を痛感すると共に、迅速な危険通報と早期避難があれば守れる命があることを学びました。また防災教育を若い世代から始めることの大切さも知りました。こうしたことを今後の私の防災活動に生かしてゆきたいと決意しています。



情報館リチャード館長



世界からの励ましメッセージ



ど根性ひまわり



南浜つなぐ館



がんばろう石巻

♪北部支部会員さん 紙上インタビュー♪

白川 恵（しらかわ けい）さん



- Q.ご出身地と自己紹介を簡単にお願いします。
- A.兵庫県姫路市出身です。結婚し東京経由で千葉に。
- Q.これまでのキャリア（お仕事など）を教えてください。
- A.和裁士、デパート店員、医療事務、健康食品販売、カレーショップ店員、マンション管理人、生協店員、塾講師、保育園、小学校の学習サポーターなどです。ボーイスカウトのリーダーも長年やりました。
- Q.特技、お持ちの資格、得意分野を教えてください。
- A.国家検定和裁士、秘書検定、小学校児童英語指導員、森林活動ガイド、動物マッサージ、環境学習指導員、赤十字救急法指導員、応急手当普及員、甲種防火管理、防災士などです。
- Q.防災士になられたきっかけはなんですか？
- A.ボランティア活動中に防災士の人から「今年が防災士資格の無料取得制度の最後の年だ」と聞かされ資格取得しました。防災士証も魅力でした。
- Q.地域や職場で何か防災活動に取り組んでおられますか？
- A.船橋市の消防団に所属しています。また赤十字救護ボランティア活動に参加しています。
- Q.2011年東日本大震災の時にはどのような体験をされましたか？
- A.アパートの塾で珈琲を飲みながら子供たちが来るのを待っていました。異常な揺れに子供たちのことが心配で小学校に行き確認すると「危険なので子供たちは下校させない」とのことでしたので、「今日の塾はお休みです」と塾生の家に伝えて周りました。帰宅すると娘たちが散らかった家の中を片付けてくれており愛犬たちも無事でした。
- Q.今はまっていること、熱中していること、趣味などがありましたら教えてください。
- A.ストレス解消に防衛ゲームをやります。趣味はガーデニングと魚の飼育など。県の鳥獣保護ボランティアをやっています。怪我をした野鳥を見つけたらお知らせ下さい。
- Q.北部支部の活動に期待すること、取り組んでみたいこと、ご意見などお聞かせ下さい。
- A.「気を付ければ死ななくても済んだのに」と後悔をしないよう自分の命を守ることを防災士として楽しく伝えていきたいです。またそうした活動について「あの人がやれるんだから私にもやれる」とその気にさせるような楽しい私になりたいです。
- Q.将来の夢をお聞かせ下さい。
- A.我が家の犬たちが自由に走り回ることができる広い土地を持ち、心が疲れた子供たちを預かってトムソーヤのようなのんびりした暮らしをすることです。

♪北部支部会員さん 紙上インタビュー♪

熊澤 晃（くまさわ あきら）さん



Q.ご出身地と自己紹介を簡単にお願いします。

A.千葉県松戸市出身です。

Q.これまでのキャリア（お仕事など）を教えてください。

A.音響・映像・監視カメラ設備の保守と修理、顧客相談窓口業務などです。現在は都内の総合病院で設備の維持管理業務に従事しています。

Q.特技、お持ちの資格、得意分野を教えてください。

A.電気工事資格、無線資格、応急手当普及員、赤十字救急法救急員、千葉県電波適正利用推進員（委嘱）などの資格を持っています。得意分野は無線関係で自主防災組織の無線連絡網の構築やインターネットとアマチュア無線を活用したネットワーク通信、画像伝送や位置情報を活用した非常通信訓練の支援などです。

Q.防災士になられたきっかけはなんですか？

A.熊本地震当日にアマチュア無線通信網で各地の赤十字無線奉仕団の救援活動や支援物資輸送のための通信業務に参加し、以後1ヵ月以上にわたりアマチュア無線での支援活動をしました。その時の無線仲間の防災士から防災士について知りました。今後地元で防災啓発活動をやりたいと思い防災士になりました。

Q.地域や職場で何か防災活動に取り組んでおられますか？

A.日本アマチュア無線連盟東京都支部の防災会議委員として運営に参加しています。地域では松戸市役所の危機管理課と連携し自主防災組織が行う防災訓練の支援、職場では消防訓練や災害医療拠点開設訓練の技術サポートをしています。

Q.2011年東日本大震災の時にはどのような体験をされましたか？

A.都内の会社で勤務中に激しい揺れを体験しました。夕刻に会社を出て松戸市の自宅まで25キロを5～6時間かけて歩いて帰りました。

Q.今、はまっていること、熱中していること、趣味などがありましたら教えてください。

A.消防に憧れがあり、消防の装備や救助法、指揮統制などに関する動画を見ることにはまっています。

Q.北部支部の活動に期待すること、取り組んでみたいこと、ご意見などお聞かせ下さい。

A.防災士としてスキルアップして早く活動服が着れるよう日々精進したいと思います。

Q.将来の夢をお聞かせ下さい。

A.生まれ育った地域の皆さんの防災意識の向上のために貢献することです。

～会員短信～

北部支部の平山優子防災士は船橋市の男女共同参画センターが発行する情報誌「f（えふ）」に「地域で輝く女性（ひと）」として紹介されることになり、8月に同誌のインタビューを受けました。本情報誌は男女共同参画の取り組みを推進することを目的に編集されており、男性保育士や女性消防団員など地域でさまざまな活動を推進する市民男女を紹介しています。

平山防災士はさまざまな地域防災活動に参加し、特に女性の視点での防災対策の必要性を船橋市にも提言し積極的に活動を行っています。平山さんは目指すべきものは生命、健康、仕事、生活などを守ることを柱とする「人間の復興」で、それを進めるためには女性の視点が大切であると考えています。そうした平山さんの防災にかける思いやビジョンがインタビュー記事として紹介されます。掲載誌は本年11月発行の予定です。

～北部支部の防災支援活動(2017年6月～8月)～

北部支部は以下の防災行事に参加協力しました。

ご協力大変にありがとうございました。

- 6月3日（土） 千葉市国際交流協会防災学習
- 6月10日（土） 船橋市資格取得者フォローアップ研修
- 6月18日（日） 習志野市防災担当者 HUG
- 6月24日（土） 成田市土砂災害訓練
- 6月25日（日） 茂原市災害コーディネーター救出救護訓練
- 6月25日（日） 野田市羽貫3自治会防災訓練
- 6月29日（木） 鴨川市体験型防災教室
- 7月7日（金） 国土交通省国土技術政策総合研究所防災訓練（茨城県）
- 7月11日（火） 若松小学校・浜町公民館救命講習（船橋市）
- 7月27日（木） 鎌ヶ谷市生涯学習職員研修会
- 8月2日（水） 野田市消防防災協会防災講演会
- 8月5,6日（土、日） そら博2017（千葉市）
- 8月19日（土） 2017 SAKAE リバーサイドフェスティバル（印旛郡栄町）
- 8月20日（日） 栄町安食三丁目防災講習（印旛郡栄町）
- 8月26日（土） ㈱アイエスアイ防災講演（千葉市）
- 8月27日（日） 船橋市総合防災訓練

新会員の紹介

2017年6月以降、以下の方々が北部支部の会員になりました。
北部支部の会員数は98名です（2017年9月10日現在）。

渡邊一弘さん（いすみ市）	野口啓次郎さん（松戸市）
尾藤信幸さん（酒々井市）	濱本武将さん（船橋市）
掃部裕介さん（船橋市）	早川 鋭さん（松戸市）
菅野一郎さん（八千代市）	上代 繁さん（四街道市）
立川清英さん（八千代市）	永野真知子さん（松戸市）
小林正男さん（白井市）	大村健二さん（柏市）

編集後記

前号に船橋市女性モニターとしての活動手記を寄せられた平山防災士が、今号でも会員短信で紹介され活躍が注目されます。また新たに広報グループに加わった中村あや子防災士が市議会の活動として東北被災地を初視察し、防災士の視点から感想と被災地の現状をまとめた手記には多くの方の目が留まると思います。皆さんも会員短信にどしどし活動状況をお寄せ下さい。今号より新しく加わった広報担当としてより良い会報を作ってゆきたいと思います。（村岡）

広報担当：茂木 宏 岩下裕二 飯岡 孝 中村あや子 村岡 綾

事務局の連絡先：竹内哲志 (takeuchi.srmmp@nifty.com)

広報担当の連絡先：koho.chibakita.bousaisi@gmail.com